

年 組 名前:

標高600メートル山中県内初確認か

環境省レッドデータブックの「絶滅危惧2類」に分類されている希少種でラン科のマヤランを、甲府市の県立施設「武田の杜保健休養林」の村山力所長が市内で確認した。県内で確認されるのは初めてとみられる。観察過程でハエ類による食害で枯れたことも分かり、村山所長は「希少種の保全に向けて実態を調べる必要がある」と指摘している。マヤランの確認とハエ類によるラン科植物への食害は、4月19日に発刊された県植物研究会の会報で村山所長が発表した。村山所長によると、昨年8月下旬に市内の標高600メートルの山中で1本を確認。9月上旬に花弁が落ちて結実したと考えられたが、11月上旬に果実が枯れて種の放出は確認できなかった。発見場所から30メートル以内ではほかにも2本が確認され、周辺に地下茎が張っていると推測されるところ。今後もモニタリングを続ける。

甲府に希少種「マヤラン」



甲府市内で見つかったマヤラン。県内では初の確認とみられる

マヤランは関東や四国、九州などに分布しているが県植物誌と県レッドデータブックに県内の分布の記載がなく、「県内では初確認と思われる」（村山所長）。国の絶滅危惧2類に分類され、福島や栃木、群馬など5県のレッドデータブックでは「絶滅危惧1類」とされ、村山所長は「全国的に個体数の少ない希少種」と説明する。村山所長がマヤランが枯れた要因を専門家などに確認して調べたところ、ランミモグリバエによる被害が指摘され

ハエ類による食害も

た。武田の杜の休養林では2020年にラン科のオオバノトンボソウ10株が全滅し、22年にはキンセイランも枯れる被害があったという。ハエ類の被害が標高600〜1300メートルで広がっている可能性があり、より標高の高い地域の希少種や貴重なラン科植物の群落への被害の危険性も懸念されるといふ。国内のラン科植物約300種のうち約7割が環境省レッドデータブックで絶滅危惧種となっているといふ。村山所長は「保全対策をするためにも県内の被害の状況を把握する必要がある」と話した。

〈雨宮丈貴〉

(2025年5月2日付 山梨日日新聞1面)

問1

県立施設「武田の杜保健休養林」の村山所長は、いつ、どこで、希少種のマヤランを確認しましたか。

・いつ: ・どこで:

問2

所長は、マヤランの山梨県内での初確認以外に、観察過程で何が分かりましたか。

.....

問3

あなたは、貴重な植物を保護するために、なにが必要だと考えますか。

.....